

公表

令和6年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼん		
○保護者評価実施期間	令和6年10月 1日 ～ 令和6年 10月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 1日 ～ 令和6年 10月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 10月 1日 ～ 令和6年 10月 30日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他事業所や相談支援事業所との連携の他、児童障害福祉分野において豊富な経験を持つ職員が訪問支援の担当をしています。長年に渡り現場で培ってきた専門的知見と柔軟な対応力を生かし、お子様一人ひとりの状況に寄り添った支援を行っています。	訪問支援後は必ず訪問先との話し合いを設け、共通理解に努めています。また必要があれば保護者との電話連絡を行い、ご家庭、訪問先、事業所が共通認識で支援ができるように配慮しています。	それぞれの職員の専門性を活かしつつ、外部研修受講を重ね、支援の質の向上に努めています。情報は共有し、意見交換を行い、学びの機会を常日頃から設けていきます。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援における保護者対応の丁寧さには今後さらなる改善の余地があると認識しており、継続的な情報共有を通じて信頼される支援ができるようにしていきます。	訪問支援員の人員が少なく、増員が必要です。支援対象がお子様であるため、保護者との連携の優先度が後回しになってしまう傾向があります。	訪問支援員の増員を目指します。必要に応じて電話連絡を行い、できるだけ早期に不安等を受け止められる体制作りを目指します。
2			
3			